令和元年　決算特別委員会６日目【教育費】

↓↓↓質疑応答↓↓↓

【松澤質問】

質問に先立ち、各学校に配備して頂きました体育館の冷暖房。

子ども達、先生方、地域の方より喜びの声が多く寄せられており、感謝しております。

設置がまだの学校もありますが、引き続きよろしくお願い致します。

まず、経済活動体験学習について質問します。

品川区では体験型経済学習として、スチューデント・シティー、経営者体験として、ファイナンス・パークな

るものを実施しておりますが、この事業の概要をお聞かせ下さい。

【大関教育総合支援センター長答弁】

市民科学習の中の一つの核として、経営者体験を子ども達が学んでおります。

5年生全員が、それぞれ学校単位で、土曜日にスチューデント・シティー、品川学園に併設している施設に行

き、例えばセブンイレブンや、産経新聞社など、実際の企業のボランティアに来ていただき、そこの一員として実際に働く体験を行っている。

1日体験だけでなく、普段学校生活の中でそこへ向け事前学習も8時間、9時間と重ねた上で、当日体験を通して実際に自分が働いて稼ぐ、そして今度は浮かうと言う体験を、仮想の街の中で生活し、子ども達からはお金を稼ぐのは大変な事だと体験できたという意見が出ております。

【松澤質問】

ご説明ありがとうございます。セブン－イレブンのいわゆるプロの方が子どもたちと一緒に授業する大変いい取り組みだと思われます。ある新聞では、キッザニアよりよいという記事なども見かけました。大変すばらしい取り組みだと思います。
例えば、この体験学習ということで、品川区伝統工芸保存会の皆様のお力をかりて伝統工芸に触れる機会、そういうものを学ぶ、また、建築組合の力をおかりして建築体験をするなど、担い手不足に悩んでいます技術者の声も生かせる取り組みかと思いますが、体験学習の幅を広げるという意味で、お考えをお聞かせください。

【大関教育総合支援センター長答弁】

ファイナンス・パークなどの施設の取り組みとはまた別で、各学校は商業・ものづくり課の協力を得まして、ものづくり体験教室など、匠の皆様方、地域の方々に学ぶ機会はこれまでもございましたし、今後とも協力をお願いしたいというふうに各校からは聞いております。
また、建設関連に関しましては、例えばしながわＣＳＲ協議会の中にも空調設備工事ですとか、あるいはゼネコン系の企業もメンバーに入っていらっしゃいますので、そういった企業へ各学校が、職場体験であったり、見学など、これまでもお願いしてきた経緯がございますので、今後ともそういった部分は大切にしていきたいと思っております。

【松澤質問】

そういった事業があるということ、勉強不足でございました。幅が広がることを要望して質問を終わります。
続きまして、区教員経費について質問させていただきます。

区固有教員との記載がありましたが、区固有教員と職員、これの違い、また仕事内容に違いがあるのかお聞かせください。

【工藤指導課長答弁】

区固有教員と職員の違いということでございますけれども、区固有教員につきましては、区で独自に採用している教員でございます。教育職でございますので、資格要件については、やはり教員免許状が必要であったりというところがありますので、そういった意味で、資格要件等の違いはあろうかと思います。区独自で採用している教員でございますので、職務内容につきましては都費の教員と全く変わるところはございません。そういった認識でございます。

【松澤質問】

区の固有教員について、お調べしましたら、今、品川区だけですね。そこで、その人数と近況、そしてこの区固有教員が大体最終的に増やそうという目標がありましたらお聞かせください。

【工藤指導課長答弁】

区固有教員の状況および今後というところでご質問いただきました。
まず、現在、区固有教員は、２７名でございます。内訳でございますが、小学校８名、中学校６名、義務教育学校１１名で、あとは派遣をしております者が１名、また指導課で指導主事の派遣が１名ということでございます。
また、今後の配置等につきましては、３０人の配置を目指しているところでございます。１５ある中学校区に２名ずつの配置を目指しているところでして、先ほど申し上げたように現在２７名ということでございますので、今年度、３名を募集枠ということで区固有教員の採用選考を行っているところでございます。

【松澤質問】

教員が増えるということは、それだけ子どもに目が届く環境になるかと思います。各学校に区固有の教職員が配置されることを要望いたしまして質問を終わります。
続きまして、校内無線ＬＡＮ整備についてです。
文部科学省では、２０２０年から小学校でのプログラミング教育の全面実施を決めたとありました。小学校で学習するプログラミング、一連の動きを実現するため、どのような組み合わせが必要か、記号をどう組み合わせるか、意図的動きが実現できるか、それにより生まれた動きをどう改善するかなどを考えるプログラミング的思考を育むことが目的とありました。小学校の早い段階からプログラミングを通じてテクノロジーに触れることは、決して早過ぎることではなく、将来的には大きな成果を生み出すものと期待しております。
そこで、３点お聞きいたします。
１点目、小学校の先生は、基本的にすべての科目を１人で指導するので、英語、プログラミングの必修化も例外ではなく、先生の負担が増え、知識不足のまま教えないといけないことが起こらないのか。
２点目、必須であるＰＣやタブレット端末の導入には、多額の費用がかかると思いますが、配布状況を教えてください。
３つ目、校内無線ＬＡＮ整備の進展状況もお願いいたします。

【大関教育総合支援センター長答弁】

プログラミング教育として３点お問い合わせいただきました。
まず１点目ですが、新たなプログラミング教育導入に関しての負担という部分のご心配に関してですが、次年度より新たな学習指導要領にプログラミング教育が、例えば６年生の理科であれば、電気の流れなどの単元、５年生であれば、多角形の図形のところでプログラミング的思考を扱うという部分が学習指導要領に定められておりますので、それに基づきまして、次年度より使います検定教科書におきましても、各社ともそのような内容が実際に教科書としてもう入ってきてございます。そちらの教科書に基づいて教えることは最低限どこの学校も行うようになります。
そのほか本区では市民科においては、例えば３年生、４年生で、市民科学習の将来設計領域、社会認識能力において、身近な生活でコンピューターが活用されていることを学んで、問題の解決に必要な手順があることを気づかせるような内容を位置づけたところでございます。これも新たな市民科の教科書に入れていきますので、今、先生方が困らないよう準備は着々と進めており、もう既に今年度、プログラミング教育研修会を行いまして、全校から代表の教員に参加をしてもらいまして、これまで各校が独自に行ってきましたプログラミング教育に関する試行的な取り組みを紹介させていただいたところでございます。
２点目の備品等につきましては、東京都のプログラミング教育モデル実施校および品川区としてのルネサンス推進事業予算で、希望のあった学校にはすべてプログラミング教育に必要な、今回申請のあったものは、今年度まではもう既に配備してございます。次年度以降の予定につきましては、すべての教科書に入ってきておりますので、その教科書の中で必要な内容は普通の学校配当の予算の中で購入は可能であると考えております。
また、校内ＬＡＮの整備等につきましても、逐次進んでおりますので、心配はしてございません。

【篠田学務課長答弁】

まず、端末等の配備状況のお尋ねでございます。こちらにつきましては、区内の学校につきまして、小学校、中学校の１０校をＩＣＴ推進校といたしまして、こちらの学校ではすべての児童・生徒にタブレットを配布しているという状況がございます。それ以外の学校につきましては、いわゆるパソコン教室、１学級分、こちらは４０台程度です。従前はノートパソコンを設置しておったのですけれども、現在はすべてタブレットに切り替えてございます。
　こちらを設置してございまして、台数でいきますと、ＩＣＴ推進校については２,５００台余、それからパソコン教室のほうには１,７００台ほどのタブレットを今配置している状況がございます。
　それから無線ＬＡＮの整備状況でございます。こちらに関しましては、ＩＣＴ推進校に、早い段階からタブレットを配布していますので、もう既に無線ＬＡＮが設置されているということでございます。それ以外の学校につきましては、平成２９年度から今年度までの３か年において、基本的には全部の学校で、一部、建て替えにあわせて設置する学校もあるのですけれども、その学校を除けば、基本的には今年度中にすべての小学校、中学校、義務教育学校で無線ＬＡＮが設置されるということになってございます。

【松澤質問】

タブレットが１０校のＩＣＴ推進校に配られるということですが、配られていない学校もあります。そういった学習格差ではないでしょうけれども、やっぱり皆さん、あの学校はある、ずるいなみたいな、子どもからすると、やっぱりあってほしいという願いがありますので、多額の予算がかかってしまいますが、全校配布を要望いたしましてこの質問を終わらせていただきます。
　続きまして、科目がちょっとわからなかったのですけれども、運動会における熱中症対策といいますか、実際、私も子どもの運動会に行ったときに、子どもたちが３０度ぐらいの気温の炎天下の中、ずっと座っておりました。学校側の対応としまして、急遽、近隣の学校からテントなどを持ってきてもらったのですけれども、数が圧倒的に足りないということがありました。そういった中、教育委員会としましては、そういった各学校の熱中症対策などで、お考えがありましたら教えていただけますでしょうか。

【大関教育総合支援センター長答弁】

各学校には熱中症事故の防止についてという通知もさせていただきました。やはり熱中症をまず予防するために、その日の湿度、気温などをしっかりと測って、どのような状況であれば決断をもって中止すべき、あるいは時間を短くする、水分補給をこまめにするなどという指導を丁寧に進めているところでございます。
　また、校舎の立地状況ですとか、そういった部分が日影がどのようにできるかなど、各校、状況も違いますので、学校の配当予算の中でテントを増設するなどの工夫は各学校が進めているとろでございます。

【松澤質問】

これからますます子どもたちの勉強しやすい環境が皆様のお力で整うように要望いたしまして、質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。